



第427号 **公益社団法人
徳島県環境技術センター**

徳島市津田海岸町 2-33
電話 (088) 636-1234(代)
FAX (088) 636-1122
発行責任者 大坂 利 弘
編集者 原岡 艶 甲

発行

浄化槽の日 第29回全国浄化槽大会開催

平成27年10月1日、第29回全国浄化槽大会が東京都千代田区のホテルグランドパレスで開催された。

これは、浄化槽の日を記念して、毎年、浄化槽関係19団体が構成する実行委員会が開催している事業であり、当日は関係者約800人が参加、盛大に開催された。

まず最初に「浄化槽の日」実行委員会を代表して、全浄連の上山健治郎会長が開会の挨拶をした後、来賓が祝辞を述べ、浄化槽適正整備推進決議の採択が行われた。

その後、浄化槽に関する功労者の表彰が行われ、環境大臣表彰28名、国土交通省土地・建設産業局長表彰4名、国土交通省住宅局長表彰3名、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長表彰18名が表彰され、徳島県では、川人常任理事が住宅局長表彰を受賞した。



また、「浄化槽の日」の標語は、最優秀賞に兵庫県の木原博子さんの「この水・この町・この国土 未来へ届ける 浄化槽」が選ばれ、他6名が優秀賞に輝いた。

式典終了後は、元埼玉大学大学院教授河村清史氏が「浄化槽の今昔～技術的側面から～」と題して講演を行った。

その後行われた懇親会には、望月義夫環境大臣を始めとする多くの国会議員が駆けつけ、口々に「これからは浄化槽の時代、環境と財政にともに優しく地震に強い点をアピールし、積極的に推進したい。」と挨拶していた。



全浄連四国地区協議会 指定検査機関四国地区協議会 合同事務局長会議開催

全浄連四国地区協議会・指定検査機関四国地区協議会は、9月30日松山市の国際ホテル松山で合同事務局長会議を開催した。

会議には四国四県の事務局長及び関係者15名が参加、徳島からは原岡事務局長他2名が出席した。

会議では10月27日開催予定の合同役員会の議題について協議し、次のとおり提案内容を決定した。

- ・慣例事業となっている全浄連四国・指定検査機関四国地区協議会 検査員研修会の継続開催の審議について
- ・機能保証制度保証期間延長の要望について

引き続き、情報セキュリティ講習として、(株)ウインから講師を招き、個人情報取扱時の留意点や情報漏洩時の代償について過去事例を元に説明を受けた。

個人情報の流出の8割が人的要因であると報告を受け、他人事と思えない状況に各県とも真剣に意見交換でき大変有意義な研修となった。

その他の議案として、徳島から、技術管理者講習などの開催につき報告した。



入会企業紹介

第 24 回理事会（書面決議）において次の企業が
入会されました。

社 名：飯島電子工業株式会社
代表者：福嶋 康雄
 住 所：愛知県蒲郡市豊岡町石田1-1
 所 属：メーカー（保守点検・検査機器等の販売）
 電 話：0533-67-2827

池田 JC わくわくフェスタ 開催

水すまし隊がイベント活動に参加

県環境技術センターは9月21日、三好市で行われた阿波池田青年会議所が主催するJCわくわくフェスタのイベントに昨年に引き続き参加し、会場を訪れた家族連れらに環境保全や浄化槽の普及に関する啓発活動を行った。



今年のイベントは、祖谷や山城など三好市山間地の食材を使ったジビエ（地美栄）料理と四国の銘酒を味わえ、さらに全国のゆるキャラの登場などもあり、県内外の親子連れら約3万人が来場した。

我ら水すまし隊15名は、リサイクルをテーマとして、ペットボトルキャップをかわいくデコレーションしたペーパーマグネットの作成ブースを出展し、個性あふれるスイーツデコマグネットの作成補助をするなど、たくさんの子供たちにリユースの楽しさを体験してもらった。

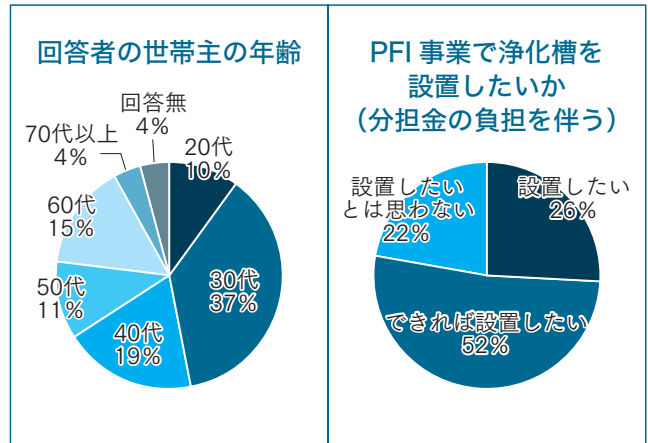
友達2人で参加した地元の小学生は、「お姉さんたちのようにかわいく作れて、とても嬉しい。」と楽しそうに話してくれるなど、午前10時の開場からイベントが終了するまで行列ができる大盛況であった。

また、イベントが開催された三好市はPFI手法による浄化槽市町村整備推進事業を導入しており、今回センターは、地元PFI事業者の(株)三好浄化槽ネットワークと共同で、来場者に合併処理浄化槽の設置に関するアンケートを実施した。

アンケートでは、「分担金を負担してもPFI事業による市町村設置型浄化槽を設置したいか」について213人から回答があり、既に合併処理浄化槽等を設置している73人を除く有効回答140人のうち、「設置したい」26%、「できれば設置したい」52%と設置を希望する回答は合わせて78%となった。回答者の意見では、「難しいことばかりなのでわかりやすくしてほしい。」、「実家が池田町にあるので、両親に勧めたい。」、また、既に合併処理浄化槽を設置した回答者からは「浄化槽の設置には費用が高くなりました。」などがあつた。

今回のアンケート対象者は、20代から50代までの現役世代が77%を占めており、その結果は、これまで水洗化の便益を得た住民には合併処理浄化槽への転換意欲は低いと思われていたが、市町村が主体となって整備する場合は、負担金も安く抑えることができるた

め、予想以上にニーズがあることが明らかとなった。センターでは、引き続き、浄化槽の転換・設置に関する住民の意向調査のアンケートを実施する予定である。



三好市PFI事業で浄化槽を設置したいか？

選択項目	回答数
設置したい	36
できれば設置したい	73
設置したいとは思わない	31
既に設置している（集合処理含む）	73

シニアワークプログラム

～「浄化槽の仕組みについて」～の講師を担当

県環境技術センターは、(協)県設備業協会からの依頼を受け、平成27年9月16日(休)に、ポリテクセンターに於いて、シニアワークプログラム「管工事入門講座」のなかの、『浄化槽の仕組みについて』の講習を実施した。

この講座は、60歳台前半の方を対象に、就業機会拡大のため(公社)徳島県シルバー人材センターが開催し、設備業協会が委託を受けて講座を受け持っているものである。

当日は、15名のシニアの方を対象として、センター 藍原検査部長が講師を務めた。

約3時間の講習時間で、①浄化槽の役割、②浄化槽の基本的な仕組みについて、③管理者に義務づけられる維持管理について等の内容で講義を行ったが、受講者は、真剣に講習に聞き入り、中には非常に熱心に質問する方もいた。

センターでは公益事業の一環として、このような講習会が、色々な意味で、地域社会の一助になるよう、要望があれば、継続して実施していきたいと考えている。



平成27年度 四国地区 検査員研修会開催

平成27年度浄化槽法定検査機関四国地区協議会検査員研修会が、9月10日(木)、11日(金)の両日、高知市の高知サンライズホテルで開催された。

研修会では四国4県の検査機関から62名の他、昨年に引き続き九州地区から6団体20名、今年度から新たに北海道・東北地区の検査機関から2団体4名が参加、計86名となった。

初日は、開催県である(一財)高知県環境検査センターの本田理事長から開会の挨拶があったあと、4つの分科会に分かれ、「管理運営部会」では勤務評価と効率化、「検査部会A」では検査の再現性と信頼性について、「検査部会B」では検査員研修及び技術力向上について、とそれぞれのテーマについて活発な意見交換が行われた。「水質検査部会」では(一財)日本環境測定分析協会の菅原技術部長より「浄化槽と水質管理」と題した講演が行われた。

その後、分科会における結果について報告が行われ、午後6時より懇親会が開催され、和やかな雰囲気の中で各県・ブロックの枠を超えて参加者間で意見交換や親交を深めた。

2日目には(公財)日本環境整備教育センターの調査研究グループリーダー仁木先生より「性能評価型小型浄化槽の水質管理と維持管理の考え方」と題した講演が行われた後、四国4県から4名の研究発表会があり、当県からは山畑、伊藤の女性2人により、以前から当センターの事業の一つとして取り組んでいる環境学習について発表を行った。

以上2日間、水質改善から電話推進方法まで幅広い内容の研修会が行われ、非常に勉強になった研修会であった。

最後に(一財)高知県環境検査センターの児島専務理事の閉会の挨拶で、2日間の研修会を締めくくった。



体15名の他、四国地区として当センターから西岡課長と黒川係長の2名、計81名が参加し、盛大に開催された。

開会にあたり、主催県の佐藤会長(宮城県)と開催県の谷川理事長(青森県)、関東甲信越地区協議会会長の小林常務理事(群馬県)がそれぞれ挨拶。

第一部では、(一社)埼玉県環境検査研究協会理事兼業務本部長の野口裕司氏による「環境技術実証事業『有機性排水処理技術分野』について」と題した公演が行われた。

環境技術実証事業(ETV)とは、環境省が先進的環境技術の普及促進を目的として、技術の導入による環境保全効果を実証するための事業である。(一社)埼玉県環境検査研究協会はその実証機関として環境省から選定されており、本公演では事業の概要や実証を行った事例やデータを交えた効果について紹介された。

第2部では総務部会と検査部会に分かれ、当センターが参加した検査部会では12課題にも及ぶ課題について積極的な議論が交わされた。その後6時30分より懇親会が開催され、幅広い地域の団体の役職員同士の意見交換を行うなど、終始和やかな雰囲気の中で親交を深めた。

今回参加した職員からは、他地区の検査機関の取り組みや事業の進め方について、具体的な話を聞くことができ、大いに参考になった。今回持ち帰ったことを生かし、センターの更なる発展に努めていきたいと語っていた。



鍵付き万能フックのご紹介*

浄化槽管理士や検査員など、日々浄化槽に関わっている皆様に、当センターが企画・開発したマンホールフックをご紹介します。

このフックにより、通常コインドライバー等を用いてマンホールロックを開閉する作業と、マンホールのフタ自体を持ち上げ開閉する作業が、これ一組だけで可能になり、とても便利で効率的になります。是非一度使ってみてください。

使用材質：SUS304

販売価格：2本セットで3,000円(税別)

販売先：(株)日環商事 TEL 076-268-1771

※会員の方は環境技術センターが直接販売させていただきますので下記までご連絡下さい。

TEL 088-636-1234 担当：宮内・北野



意匠登録出願中

北海道・東北地区 浄化槽指定検査機関 連絡協議会に参加

平成27年度北海道・東北地区浄化槽指定検査機関連絡協議会が、9月3日(木)青森県青森市の海扇閣で開催され、北海道・東北地区の検査機関8団体64名の他、今回から地区交流ということで関東甲信越地区から9団



平成27年9月21日に開催された『JCわくわくフェスタ』で、子供を対象とした広報イベント活動を今年もみずすまし隊が企画し出展した。

今回のテーマは『リサイクル』で、ペットボトルのキャップを使って、かわいいマグネットをつくってもらう体験型イベント。

キャップの内側にマグネットを取り付け、紙粘土で

土台を作ってから、イチゴなどのフルーツやマカロン、クッキー、アイスなど本物そっくりのパーツでデコレートする。見た目のかわいらしさから、女の子に大人気であった。ならべたパーツも、ペットボトルを再利用しガラスコップのような入れ物を製作するなど、エコ工作で環境保全をアピールした。

ちょうど、10月は「リデュース・リユース・リサイクル推進月間（略称：3R推進月間）」で循環型社会の推進もPRできたのではないだろうか。



水質計量便り

～トリクロロエチレンの基準値見直し～

すでに、環境基本法に基づく環境基準については、平成26年の11月に「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件」及び「地下水の水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件」が公示され、トリクロロエチレンについて、環境基準が0.03mg/lから0.01mg/l以下に変更されました。

このことを踏まえ、公共用水域又は地下水の水質汚濁を防止するため、水質汚濁防止法に基づく排出水の排出、地下浸透水等の規制に係る項目の許容限度等の見直しについて中央環境審議会が答申。これを受け、トリクロロエチレンの『排水基準』及び『地下水の水質の浄化措置命令に関する浄化基準』を平成27年9月18日に公布し、同年10月21日から施行することとなりました。措置の概要は以下のようになります。

①水質汚濁防止法施行規則の一部改正

「地下水の水質の浄化措置命令に関する浄化基準」の値を0.03mg/lから0.01mg/lに変更。

②排水基準を定める省令の一部改正

「排水基準」の値を、0.3mg/lから0.1mg/lに変更。

また、暫定排水基準については、いずれの業種についても設定しない等。

トリクロロエチレンは、水質汚濁防止法で有害項目に指定されています。特定施設を維持管理される対象事業者の方は、ご注意ください。(^ _ ^) / ~

by koizumi

※トリクロロエチレンは、有機塩素系溶剤の一種。常温では無色透明の液体で、クロロホルムに似た甘い臭いを有し、揮発性、不燃性、で水に難溶。ドライクリーニングのシミ抜き、金属・機械等の脱脂洗浄剤等に用いられる。しかし環境中に排出されると、自然にはほとんど分解しないので地下水汚染の原因物質となる。



事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

○11条検査

日程：平成27年11月9日～12月11日
地区：徳島市・鳴門市・松茂町・板野町

○7条検査

日程：平成27年11月9日～12月11日
地区：徳島市・小松島市・阿南市・藍住町・北島町・石井町・上板町・神山町・勝浦町・上勝町・那賀町・美波町・牟岐町・海陽町・佐那河内村

○那賀町検査(らくらくあんしん協議会)

日程：平成27年11月9日～12月11日
地区：那賀町全域

○神山町検査(神山町きれいな水づくり協議会)

日程：平成27年11月9日～12月11日
地区：神山町全域

